

# 南井上小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本を充実させるための「書く・聞く・話す」活動の実践
- 主体的に課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成

## 学力向上検討委員会構成

### 学力向上推進員

遠藤 みゆき

### 委員

(校長) 榎本久美(教頭) 坂田淳二(教務主任) 武知弥生  
(研修) 貴志久美子(学年主任) 秋山万里子 小賀野佳代  
子 丸山ひろみ 藤田ひろみ(特支) 寺内小織

### 校長

榎本 久美

## 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、さまざまな機会を捉えて、取組み状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よざ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算など基本的な学習に意欲的に取り組める児童が多い。 ●基本的な学習内容が十分定着しておらず学力の二極化が見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読むことができる。また、より適切な言葉を用いて話したり、文章を読んだり書いたりすることができる。	・朝活で、小テストや音読・群読、読書タイムを計画的に実施し、基礎的内容の定着を図る。 ・効果的なノートの取り方、短文の作り方、工夫した日記の書き方等を教師が共有し、使える言葉や漢字を増やしていく。 ・子ども新聞を活用した視写の活動を積極的に取り入れ、文節や言葉、意味のまとまり等をとらえられるようにする。 ・国語辞典を活用し、言葉の意味や使い方を調べたり、文の中で活用したりできるようにする。	・朝活で読書の時間を積極的に確保し、基礎的内容の定着を図る。 ・日記の書き方や工夫された表現等を教師が共有し、着実に書く力をつけていくよう指導に生かす。	・群読や定期的に本を借りる習慣をつけることで、語彙量が増えたり、読む力をつけたりすることにつながった。 ・文章で表現するのが苦手な児童も一定数いるが、日記指導や子ども新聞を活用して要約したり自分の考えを表現したりする活動を通して、少しずつ書く力が付いている。 ・国語辞典を活用し、文中の意味調べに取り組みながら、文章の中で活用する力はまだ十分ではない。	・朝活での読書や小テスト等による基礎的内容の定着を継続しながら、図書室を積極的に活用する取組みを計画する。 ・日記指導を継続し、子どもの成長を評価しながら、工夫された表現を共有し、さらに表現力を高めていく。 ・タブレットを効果的に活用し、個に応じた基礎学力の定着を図る。アプリの使い方や効果的な活用の仕方について教職員で情報交換する。

### (2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よざ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりの考えをもち、意欲的に発表したり文章に書いたりできる児童が増えてきている。 ●自分の意見や考えを相手と比べながら考え、よりよい考えにまとめていくことが苦手である。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめたりできる。	・学習後のふり返りを大切にし、自分がその時間に考えたことについて表現する習慣をつける。 ・書く機会を増やしたり、相手の意見に対して自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら伝えたりする学習活動を意図的に設定する。 ・タブレット等のICTやホワイトボード、付箋などを効果的に活用し、多様な方法で児童が互いに意見を出し合い協働的に学ぶ場を設定する。 ・学級会等で、根拠や理由をはっきりさせて話し合う経験を積めるよう、話し合いの場を設定する。	・学級会で「学級会ノート」に自分の考えを前もって書いておくことで、話し合いの場で自信を持って発言できるようにする。	・話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えや立場をはっきりさせること、その理由を全体の場で発言することができるようになってきた。 ・簡単な記述に対する抵抗感は減少したが、学習内容を活用して考える問題や、筋道立てて記述する問題については課題が見られる。 ・タブレットや付箋を様々な場面で使用し、協働的に学ぶ活動を楽しみながら行っている。	・さらに相手の思いも大切にしながら自分の思いを表現できる場を学級会以外の場面でも設定していく。 ・学習したことを活用して考える場面を意図的に設定し、考えの整理の仕方や記述の構成を段階的に指導していく。 ・思考ツールなどを活用し、思考の過程を可視化するワークシートや記述例を提示し、「考えをまとめて書く」経験を積み重ねるようにする。

### (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よざ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に、真面目に一生懸命取り組める児童が多い。 ●難しい課題になると、諦めて最後まで取り組むことができなかつたり受け身になったりする児童がいる。	・決められた課題だけでなく、初めて出会った課題に対しても、身に付けた力を生かして、自分なりに解決していくことができる。	・発展性のある課題やオープンエンドの課題、豊かな体験活動を設定し、児童の学習意欲を高める。 ・家庭学習の手引き等を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・読書活動の習慣化を図る。 ・タブレット等ICTの活用を図り、児童が進んで課題に向き合える時間を確保する。また、自力解決時の考え方を分かりやすく伝え合えるようにする。	・タブレットを用いた自力解決や考えを伝え合う方法について、ICT支援員の協力を得て、見直しを図る。	・体験活動やオープンエンドの課題に生き生きと取り組む姿が見られた。 ・読み聞かせをすることで内容や読書に対する意欲が向上し、教科の内容の意欲化が図れることもあった。 ・調べ学習など、自分で決めた課題については、資料やICTを活用して意欲的に取り組んだ。しかし課題が難しくなると、粘り強く考え続けることが難しく、すぐに答えや解決方法を求めようとする姿が見られる。	・タブレットの活用を家庭、学校、ともに効果的に進めるとともに、体験活動(実際に体を使うこと)にも十分取り組ませたい。 ・ICTを活用し、自分で課題の難易度を選んで、個別最適な学びに取り組んだり、必要な解決方法を自分で探して、試行錯誤しながら取り組んだりする経験を積む。 ・ICTを使って友達の意見と比べたり、つなげたりしながら自分の考えを深められるようにし、発言の苦手な児童の参加も促す。

## 令和7年度 学力向上ロードマップ

